



日本キリスト教団  
**名古屋新生教会** 教会学校だより  
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820  
 ホームページ: [名古屋新生教会](#) 検索

この冬は全国各地で「強烈な寒波」がやって来て、この地方でも雪の影響がありますね。道路の通行止めや渋滞があると、荷物を運ぶトラックが予定通りに動けず、スーパーなどに商品が入ってこない、そういったことも雪の影響で起こっています。本格的な冬の季節はまだまだ続きます。コロナに加え、インフルエンザや風邪などにも気をつけて、元気に過ごしましょう。

## 今月の礼拝 単元28: 捕囚と帰還

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生以上) 9:00 ~ 9:30	分級 (小学生/中学生以上) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00 ~ 10:20
2月5日	帰還	エズラ記 1-3章	武岡 基	(状況を見て) プレイ・タイム	武岡 基
2月12日	エズラの指導	エズラ記 7:1-10、8:21-23 8:31-32、9:1-10:5	安達正樹牧師	(状況を見て) プレイ・タイム	安達いづみ
2月19日	ネヘミヤの祈り	ネヘミヤ記 1-2章	林 小夜子	(状況を見て) プレイ・タイム	武岡路実
2月26日	城壁の再建	ネヘミヤ記 4:1-6:16	武岡路実	(状況を見て) プレイ・タイム	安達正樹牧師

## 子どもの礼拝 (CS) クリスマス礼拝・祝会 12月18日 (日) 午後

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんと共にクリスマスの礼拝を守りました。礼拝後には人形劇や大きな絵本「はらぺこあおむし」を読んでいただき、子どもから大人まで、みんなで楽しいクリスマスの祝会を過ごしました。



## 今月の聖句

なにこと なにごと かみ かみ み み こころ みこころ かな かな  
**何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、**  
 かみ かみ き き い い  
**神は聞き入れてくださる。**

(ヨハネ I 5:14)

## 今月のさんびか ♪

### こどもさんびか 9 (めぐみうけて)

子どもの礼拝では、今月も旧約聖書から学びます。内容としては、イエスさまがお生まれになるよりも500年ほど昔の歴史的事実が多くて、ちょっと難しいところですね。でも、歴史的事実や、国と国あるいは民族と民族の関係性などがわからなくても、登場する人物から、神さまを信じることの大切さを学ぶことが大切です。

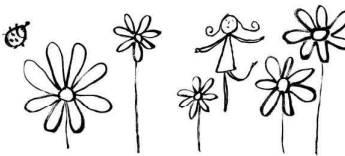
今月のさんびか9 (めぐみうけて) は、昔の「こどもさんびか」(1966) から引き継がれた賛美歌で、これまで教会学校や保育園・幼稚園などでもよく歌われてきました。今の大人の人たちも子どもの頃に歌っていた賛美歌ですので、今では子どもから大人まで一緒に歌える賛美歌です。

作詞者の今井義子さん(生没不明)は青山学院中等部の国語教師でした。東京の杉並教会で教会生活を送り、「こどものさんびか同人会」で活動するなど、多くの賛美歌を作詞、訳詞しています。

作曲者はT. フレーリッヒさんとなっていますが、詳しいことはわかっていません。ただ、この旋律は昭和時代に活躍した日本の音楽家で賛美歌も多く残した岡本敏明さん(1907-1977)の作詞・編曲による『ワンダーフォーゲル』という合唱曲でも親しまれています。

1917年にドイツで出版された「ワンダーフォーゲル(※)のための歌集」の中に、このフレーリッヒさんによる同じ旋律の歌があり、歌詞の内容から、「めぐみうけて」はこの歌集の中の歌から着想を得たのではないかと考えられています。

私たちは神さまからたくさんの恵みをいただいています。背丈だけでなく内面も日々成長しています。これも神さまからの恵みです。そのような神さまに向かって、生き生きとほがらかに、「神さまのみ栄えをほめ歌おう!」と呼びかけられている賛美歌です。



※ワンダーフォーゲル…山野を徒歩旅行し、自然の中で自主的生活を営みつつ、心身を鍛練し、語りあうことを目的とする青年活動の一つです。日本におけるワンダーフォーゲルは戦後1930年代に大学生の間で始まり、そこから徐々に社会人にも広まってきました。日本の場合、山地が多いため、その活動は登山と混合されやすいですが、自然の中で生活し語りあうことが目的とされており、山もその対象の一つですが、海岸や平野などさまざまな場所を利用して野外活動をしています。

## がたんじょうびおめでとう 🎂

## 2月生まれのお友だち

### バレンタインデーって、実は…

バレンタインデーにチョコレートを贈るという習慣は日本独特のもので、1936年に神戸のチョコレート会社が新聞広告に「あなたのバレンタイン (=愛しい方) にチョコレートを贈りましょう」と宣伝したことが日本でのバレンタインデーの発祥という説が有力です。その後、戦後にはお菓子業界や流通業界が販売促進のために普及が進められ、1950年代後半から高度経済成長と共に広がり、1970年代ごろに定着したそうです。

バレンタインデーそのものの起源は諸説ありますが、ローマ帝国の時代にさかのぼるとされています。ローマ帝国皇帝・クラウディウス2世は、愛する人を故郷に残した兵士がいると士気が下がるという理由で、兵士たちの結婚を禁止したと言われています。キリスト教の司祭だったワレンティヌス(バレンタイン)は、結婚を禁止されて嘆き悲しむ兵士たちを憐れみ、彼らのために内緒で結婚式を行っていましたが、やがてその噂が皇帝の耳に入り、怒った皇帝は二度とそのような行為をしないようワレンティヌスに命令しました。しかし、ワレンティヌスは毅然として皇帝の命令に屈しなかったため、269年、最終的に彼は処刑されました。彼の処刑の日は、家庭と結婚の女神ユーノーを記念する祭日であり、豊作を祈るルペルカリア祭の前日である2月14日があえて選ばれました。ワレンティヌスはルペルカリア祭に捧げる生贄(いけにえ)とされたといわれます。このためキリスト教徒にとっても、この日は祭日となり、恋人たちの日となったといわれています。